

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 4月 1日

事業所名 スローステップ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		区分け活動場所の	活動内容と場所の明確な提示が必要
	2	職員の配置数は適切である	100%		求人継続的な募集	職員の継続的な確保に向け企業努力を行う
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	33%	67%	移動時の付き添い	構造的に困難な部分があり階段昇降は職員が付き添う
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		個別支援計画の会議	会議に出席できない職員への説明の徹底を行う
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		匿名でのアンケート回収	保護者のニーズを把握しサービスの向上に努める
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		ホームページにて公開	HPの周知を行う
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		100%		今後第三者評価の導入を検討
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		研修の実施	虐待防止や発達障害の研修派遣と伝達研修を行う	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	67%	33%	課題の整理を行う	詳細なアセスメントの実施と保護者との情報交換を密にする
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		把握しやすいフォーム	ADL・IADL・嗜好・既往歴・成育歴・病歴・行動特性等を反映
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		職員の意見を組み込む	立案担当職員の原案をもとに話し合いチームで作成
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		マンネリ化の防止	季節ごとの課題やイベントの実施を取り組んで行く
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		休日利用の課題設定	時間にゆとりがある機会に普段できない活動を行う
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%		年代別活動の実施	年代別の活動と一緒に活動の場面と内容の設定を行う
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		ミーティングの実施	前日休務の職員への引き継ぎの徹底
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		送迎後のミーティング	保護者からの引継ぎ内容を確実に共有する
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		支援記録の作成	支援計画に沿った記録の整理
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		PDCAの確認	新たな課題を見出し成長につながる支援計画の作成
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	50%	50%	ガイドラインを把握する	放課後等デイサービスガイドラインの確認

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		勤務の調整	児童発達支援管理責任者を中心に参加する
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		受け渡し時の引継ぎ	迎えの際に状態や学校での様子など詳細な情報交換
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		100%		医療的ケアが必要な児童の受け入れに際しては、個別台帳に緊急連絡先と対応マニュアルを作成記入。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	67%		必要に応じ就学前の聞き取りを事業所、保護者、相談より行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	17%	引継ぎの情報共有	引継ぎの連絡や書面での引継ぎを行う
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%	研修派遣	職員の研修の派遣や必要に応じて連携し助言を求めてゆく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		100%		事業所で行う行事について地域と連携を行ってゆく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		100%		該当する案件があれば積極的に参加する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		個別相談と保護者支援	保護者との連携を密にし課題や育ちについて共有理解を図る。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%		個別相談と保護者支援	フォーマル、インフォーマルの活用と兄弟児への助言を行う。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	17%		わかりやすい説明を継続しおこなってゆく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		個別相談と保護者支援	必要に応じて家庭訪問や面談の機会を行ってゆく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%		現状、保護者会が無く今後検討する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			苦情には迅速に対応し、周知を行ってゆく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50%	50%		行事予定は配布しており、会報は今後検討。
	35	個人情報に十分注意している	100%		職員への守秘義務徹底	守秘義務に関して雇用契約時に説明を行い、離職時に書面を交わす。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		わかりやすい表現	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%		餅つきなど一部行事に留まっており今後拡大を検討する

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		100%		保護者への周知に努めていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			避難訓練の報告を保護者に周知してゆく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		研修参加と伝達研修	虐待防止の研修は今後も積極的に取り組んで行く。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%		虐待防止研修	身体拘束に関わる研修を虐待防止研修に含み事業所の意思決定の統一を図る。やむを得ず身体拘束を行う可能性がある児童と保護者には十分に説明を行い個別支援計画に記載。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%		食物アレルギーの児童がいないが必要に応じ整備する
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		報告書の回覧	今後も報告書を作成し事故防止に努めてゆく。